

地域発・防災ラジオドラマ
グループ名「千歳高校放送局」

妄想の先に制作して委員会
タイトル 「妄想の先に」

主人公の現在地は自宅の一室 時間は午後八時

SE：ピ。ピ。ピ。

緊急地震速報：「十秒後に震度5の地震が来ます」

主人公：「え？やばいじゃん」

主人公：（落ち着け俺！こういう場合は…）

緊急地震速報：「ピッピッ：残り九秒…」

（ここから主人公の妄想①へ）

主人公：「まずはドアを開けて逃げ道を確保するんだ！」

SE：走り出す音

SE：ドアを開ける音

主人公：「よし。ドアを開けたぞ。」

SE：ガタガタガタ・・・

主人公：「治まったか・・・よし、急いで外に！」

SE：ざわつく街の様子

主人公：「酷い有様だぜ」

主人公：（ハッ！りょうこ先輩は大丈夫か！？）

主人公：（りょうこ先輩は同じ学校に通う1つ年上の3年生。学校のマドンナの存在で僕がずっと好きだった人だ）

SE：走っている音

主人公：「息を切らしながら）あ、瓦礫の山の中からりょうこ先輩の手が出てる。」

りょうこ：「・・・和也君？」（がれきのしたじきになっている）

主人公：「今助けますよ！」

SE：ドンガラガツシャーン

主人公：「大丈夫ですか先輩！」

りょうこ：「ありがとう私を抱いて！」

BG：結婚式の曲

フェードアウト。

緊急地震速報：「ピッピッ・・・残り七秒・・・」

主人公：「・・・ハッ！違う違う、つい妄想にふけてしまった。俺は逃げ道を考えていたんだ・・・」

主人公：「逃げ道より、火の元の確認だ」

く主人公の妄想②く

主人公：「よし！ガスの元栓を閉めたぞ！コレで火事は防げた」

SE：ガタガタガタ・・・

主人公：「・・・揺れは治まったな」

主人公：「火は消えてる・・・ハッ！」

主人公：「（そういえば、幼馴染のありさは大丈夫だろうか・・・）」

ありさ：「今夜は、無駄に天ぷらを揚げる予定なの♥」

SE：バンツツ

SE：燃えてる様子。サイレン音

主人公：（！・・・まさか！）

主人公：「ありさあ〜」

SE：燃え盛る家

主人公：「ありさの家が景気よく燃えている」

SE：燃え盛る家の中

主人公：「ありさ！大丈夫か！」

ありさ：「うう、和也？どうしてここに？」

ありさ：「地震のときはガスの元栓を閉める。防災の基本よね」

主人公：「そんなことはどうだっていい！逃げるぞ！」

SE：燃え盛る家

ありさ：「どうして来たのさ！私の事なんてほっとけばいいのに」

主人公：「お前のことが好きだから・・・」

ありさ：「え？」

ありさ：「実は私も」

BG：結婚式の曲

緊急地震速報：「ピッピッ・・・残り六秒・・・」

主人公：（・・・ハッ！だめだ、だめだ、つい妄想に・・・）

主人公「でも・・・もし、このまま停電にでもなったら・・・」

く主人公の妄想③く

主人公：（来るぞ！）

SE：ガタガタガタ

SE：電気が切れる音

主人公：「来たな、停電。コレが地震の二次災害ってやつか！」

SE：懐中電灯を取る

主人公：「こんなこともあるうかと、日頃、防災を意識している俺は、いつもポケットに懐中電灯を用意しておいたのさ」

ふみか：「キヤー、キヤー」

主人公：「隣の部屋から妹のふみかの声が！ふみかは暗いところにいるとパニックを起こしてしまうんだ。今行くぞ！」

SE：ドカン！

主人公：「大丈夫か！」

ふみか：「おにいちゅああああん」

主人公：「もう大丈夫だ」

BG：結婚式の歌

緊急地震速報：「ピッピッ・・・残り三秒」

主人公：「ハッ、しまった、妹なんて・・・あ、違う違う。俺は停電に備えるつもりだったんだ」

緊急地震速報：「ピッピッ・・・残り二秒」

主人公：「あ。もう時間がない！！」

SE：心音

緊急地震速報：「ピッピッ・・・残り一秒・・・地震がきます。」

SE：大地震で揺れる感じ

主人公：「うわああああ！目の前には机がある！机のしたなら安心だ！」

主人公：「あゝタンスが倒れてきたあああ」

SE：何か倒れ込んでくる音

りょうこ：「災害のときには助け合いだよね」

ありさ：「地震のときは火の元をしっかりと確認しないとね」

ふみか：「二次災害を出来るだけ押さえる」

NA：「屋内で緊急地震速報が鳴ったら、速やかに机の下に避難しましょう」